

(1)児童の体力の現状

- 松江市の平均との比較で、男子が3/4種目、女子が約1/2種目上回った。(昨年度は男女ともに、県平均を下回った種目が多かった。)
- 50m走は男子が全学年、女子も5学年で松江市の平均を上回った。
- 握力、立ち幅跳び、長座体前屈の3種目は男女ともに松江市の平均を上回った学年が多かった。
- 男子は上体起こし、ソフトボール投げの2種目で5学年が松江市の平均を上回った。
- シャトルランは男女ともに松江市の平均を上回った学年は半数であった。
- 反復横跳びは男子が4学年、女子が5学年で松江市の平均を下回っており、敏捷性が課題である。
- 女子は上体起こし、ソフトボール投げの2種目で4つの学年が松江市の平均を下回った。女子は筋力および筋持久力と投力に課題が見られる。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

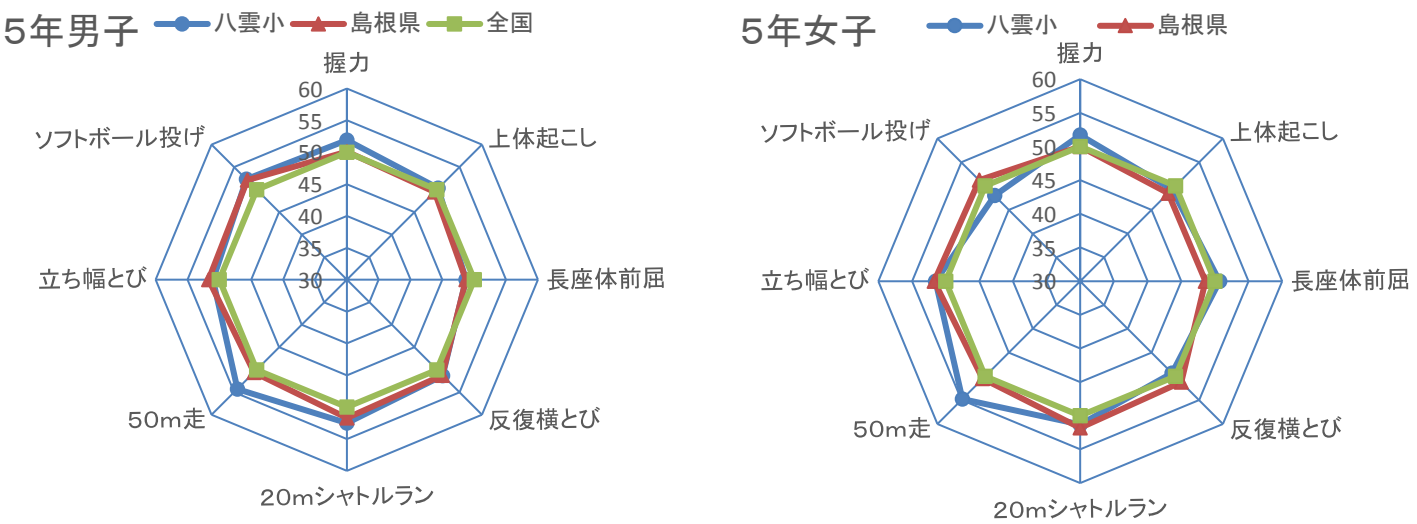
- 体力テストにおいて「県平均以上の種目を1/3以上に向上させる」ことを目標数値としていたが、松江市平均との比較では目標を大きく達成した。年度初めに基本的な動きを理解・習得させてからテストを実施することの共通理解を図ったこと、4月の体育科の授業の中でしっかりと体づくりを行ったことが結果に表れたと考える。
- 2学期に行う全校でのロードレース大会に向けての取り組みを中心に、「全身持久力」を高める取り組みを重点としてきた。昨年度よりシャトルランの結果は向上したが、さらに県平均を上回る学年が増えるように、児童の活動意欲が高まるような働きかけを考えていきたい。
- 体力づくりカードの内容が児童の実態に合わなくなっている。児童の活動意欲に繋がるようなカードの内容を検討していく必要がある。
- 投力については、男子は投げる動作を改善することで記録が伸びたが、女子は動作習得だけでは記録の伸びに繋がっていない。投力を高める運動を意識した体育科の授業を工夫する必要がある。
- 「敏捷性」はここ数年の本校の課題である。具体的な対策を考える必要がある。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・体育副読本「わたしたちの体育」(3年生以上採用)を授業の中で有効に活用しながら、日々の体育の授業を充実させる。年度初めに体育科学習の共通理解を図ること、可能な限り校内の授業研修を行っていく。校外の研修にも積極的に参加し、校内へ広めていく。
 - ・春の陸上練習(5・6年生)、秋のロードレース大会や冬のなわとび集会などの行事に向けて、子どもたちの意欲が高まり積極的な取り組みとなるような働きかけを工夫する。
 - ・「敏捷性」「投力」の向上を目指した重点単元や体力づくりの内容を実施していく。
 - ・外遊びを奨励する。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・「限界に挑戦」(6年間の体力テストの結果を記入した個人カード)を家庭に通知し子どもたちの体力の現状を知らせるとともに、学校で取り組んでいることや家庭でも協力してほしいことを発信する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・小中合同で行う「すこやか健康チャレンジシート」の年3回の実施と家庭への呼びかけを行う。

調査実施者数(人) 1年(男子34・女子31) 2年(男子20・女子28) 3年(男子34・女子39)
4年(男子24・女子32) 5年(男子37・女子29) 6年(男子29・女子29)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

